

コレ、ひとつ。



台間カメラ



× 1台

みまもりスタッフ



× 3名

ITA

『台間カメラシリーズ』



最新設備機器&サービス

セキュリティ機器

台間カメラで見張る、見守る サービスの質を上げつつ省人化

台間カメラは不正監視のために生まれた製品だが、会員証やプリペイドの抜き忘れ事案、常連客対応など、顧客サービス面でも大いに活用されている。限られたスタッフ数で「目」の行き届く運営ができるため、人手不足の切り札としても再注目設備だ。

遊

技台がらみの不正行為は、遊技台の前で行われる。ならば、遊技台自身に『目』を持たせたら…とい

う率直なコンセプトから誕生したアイ・テイ・エイ・ビデオ・サービスの「台間カメラシリーズ」(以下「台間カメラ」)。



【画角イメージ】

遊技台と遊技台の間、天板付近の高さに設置。遊技者の容貌、手もとを至近距離のベストアングルで捉え、遊技台を前にした不審な挙動、不自然な手つきなど、天井設置のカメラでは追いきれない小さなアクションまでつぶさに映し出す。台への細工はもちろん、変則打ち、プリペイド抜き取りの監視、何かが起きた際の録画映像による事後検証において、絶大な威力を発揮する。

そして忘れてならないのが、高い抑止効果だ。握りこぶし程度のサイズとはいえ、不正を働こうとする者にとっては目の上のコブ。大きな存在として映るに違いない。

昨今、人手不足・採用難が叫ばれ、スタッフ一人あたりの担当シマ数は増える傾向にある。各台計数などの設備で一定の「手」は確保できるが、「目」の不足まではカバーできない。目配りの低下は、セキュリティ、サービス両面の質低下に直結する。これを補完するためにも台間カメラは有効だ。

不正行為、お客様間トラブル、店内遺失物、18禁やのめり込みなど、あらゆる対応は目配りから始まる。表情、手もと、その周辺。台間カメラならではの映像をひと通り見るだけでも、実際にスタッフが巡回する以上の情報が得られる。むしろ同じ情報量を生身のスタッフが収集するなら、スタッフの大増員が必要だろう。

スーパーではセルフレジの導入が加速し、大手牛丼チェーンでは、フロアスタッフを置かない店舗が現れた。コンビニ業界と経産省が一体となり、瞬時に会計が完了する商品タグの実用化を急ぐ。省人化・少人化は、多くの業界で切実な課題となっている



【台間設置イメージ】

が、これらセルフ系への移行は、スタッフに代わり、お客様が作業を負う反面がある。一方、台間カメラはスタッフに代わって不正を見張り、お客様を見守る。

サービスの質を上げつつ省人化を実現。導入を保留している設備担当者は、再検討してはどうか。



アイ・テイ・エイ・ビデオ・サービス株式会社
〒590-0831 大阪府堺市堺区出島西町 3-11

【本社】 072-243-6666	【東京支社】 03-5800-0717
【名古屋支店】 052-777-0030	【福岡支店】 092-432-3130
【札幌営業所】 011-231-3600	【仙台営業所】 022-246-9110
【金沢営業所】 076-292-2250	【広島営業所】 082-264-2424
【四国営業所】 0877-98-4912	【熊本SS】 092-432-3130

お客様に最適な防犯システムをご提案します

<http://ita-video.co.jp>